

令和4年9月司法試験合格 N.M.さん

2001年3月 早稲田大学法学部卒業

2017年4月 筑波大学法科大学院未修コース入学（長期履修）

2021年3月 筑波大学法科大学院未修コース修了

2022年9月 司法試験合格

## 1 法科大学院入学の経緯

大学卒業後、特別支援学校で教員助手をしながら通信教育で小学校教諭免許状を取得、正規の教員となり、いくつかの公立小学校で学級担任として勤務していました。生き生きとした子供に囲まれて過ごす毎日は楽しく、小さな工夫で子供たちが変わっていく姿を目の前で見られるこの仕事が好きで、苦労は多いものの、充実していました。

3人目の子供の産休・育休から職場復帰した年、習い事でも始めようかと調べた際に、社会人のための夜間法科大学院があることを知り、これなら働きながら勉強できるし、自分にとって司法試験を受けるラストチャンスかも、と思いつき、とりあえず入試を受けることにしました。教員の質的・量的業務過多が社会的に注目され、「スクールロイヤー」という言葉が聞かれるようになっていた頃でもありました。それまでの教員経験を活かした形で、小さなころから夢見ていた法律の仕事ができるかもしれない、法律の専門的知識を得て、苦しんでいる教育現場の一助になりたい、と思ったことも動機の一つでした。

## 2 学生生活

働きながらロースクールに通うこと、それはまさに「いばらの道」です。仕事を終わらせ、授業スタートに間に合うよう茗荷谷に駆けつけるだけでも、相当な努力と工夫を要します。職場の理解や家族の協力を得るための調整も必要です。しかもそれを週に何回も、3～4年に渡って続けなければなりません。

さらに、授業で課される予習やレポート、判例報告、ゼミ参加、3か月ごとに訪れる期末試験、GPAや単位数での進級要件・・・次々とハードルが現れます。

そんな時に助けてくれるのが、志を同じくする友人です。課題の提出日、試験の範囲や出題方法の確認、過去問対策やゼミの運営、飲み会の企画にいたるまで、私の学年にも中心となって皆をまとめてくれる心強い方々がいらっしゃいました。筑波ローの学生は、優秀かつストイック、コミュニケーション能力も高い方ばかりで、メンタルに余裕があるためか、予習成果や参考となる文献・資料、よい評価を得られた答案等を惜しみなく共有してくださることが多く、私の命綱となりました。また、それぞれの職場でエース級の活躍をされているのが言葉の端々から感じられ、そんな他業種の話聞くのも学生生活の楽しみの一つでした。

私は保育園児を含む3人の子供を育てる母親だったため、授業のない日は家族と過ごす

時間を優先し、自宅での勉強時間は本当に最低限しか取れませんでした。平均すると平日は1時間あるかないか、休日でも3時間ほどでしょうか。先生方から課された「宿題」をこなすだけで精一杯。それは、当時の自分が置かれた状況では仕方のないことで、変えられませんでした。その分、授業中は全集中で先生の話聞き、期末試験前には得意の手書きでノートをまとめていきました。このノートは、信じられないことに(?)、司法試験本番直前の参照資料にもなりました。筑波ローの授業や期末試験は本試験にも十分対応できるレベルですし、やはり、自分の思考に沿った自作資料が一番です。時間のない社会人の皆様には、授業と期末試験対策を大切にされることを強くおすすめいたします。

### 3 修了後、司法試験合格まで

仲間との思い出に彩られた学生生活とは対照的に、修了してからは、自分の「合格したい」という気持ちだけが頼りの、孤独な勉強生活が待っています。

特に1回目の司法試験に不合格だった後は、「今でも十分に教員として職責を果たし社会貢献し、収入も得ているのに、なぜ、こんな苦勞をして勉強をしているのだろう」という、「それは、自分が決めて、やり始めたことだから」としか答えようのない問いに悩まされました。この2回目の司法試験を受けるまでの1年間に、先に合格して励まし続けてくれた同期の友人、共に合格を目指して声を掛け合った同期の友人、そして難関試験に挑戦する私の可能性を信じ、いつも前向きに応援してくれた夫と我が子たちの存在がなかったら、私は挫けていたと思います。仕事に家庭にと、相変わらず勉強時間は確保できない生活でしたが、精神的には司法試験に常に拘束されているような、本当に苦しい期間でした。

なお、筑波ローではGPA要件ぎりぎりセーフで修了した私が、時間のない中でどのように勉強したかについての具体的な対策は、「省エネ合格体験記 N」として学内掲示板に提供しておりますので、ここでは割愛いたします。

### 4 法科大学院で学ぶ意義についての意見

法科大学院に入学したのは、司法試験の受験資格を得るためでした。

しかし私は今では、たとえ司法試験に合格していなかったとしても、筑波ローで学んでよかったと思っています。それは、法学部を卒業しただけでは得られなかった、「法的思考」が身につけているのが自分でも実感でき、職務に活かすことができると分かったから、です。

筑波ローに通うようになってから、職場で、「話すことに説得力がある」「問題を整理してくれたから解決できた」「文章が読みやすい」等々と評価されることが多くなりました。担任している子供たちからは、「怒るときに、納得させてくれるからいい」とも言われました。これは、法律を学んだことにより法的な思考方法を身につけ、それを仕事でも応用できるようになったからだと思います。

また、1回目の司法試験に不合格となった後は、勉強したことを直接的に職務に活かしたいと考え、法務省主催の法教育の研修に参加し、義務教育段階での法教育の授業を自分でや

ろうと計画してもしました。（その後、司法試験に合格したため退職したので、実現の機会はまだ訪れていませんが・・・）

法律を学ぶことは、自分の知見を確かに広げ、思考力や表現力を何段階もレベルアップさせてくれます。これまでと同じ世界が、違って見え、物事へのアプローチが変化してきます。それを今後の人生にどう活かすかは、自分次第です。司法試験に合格し、法曹となることは、無限に広がる道の一つでしかない。

このことは、ぜひ、心に留めておいてください。

## 5 最後に

知力・体力・時の運に恵まれた、本当に一部の限られた者にだけ許される贅沢な挑戦、それが有職者の夜間ロースクール生活だと私は思います。自分がその挑戦者となれたことを、いつも誇らしく思っていました。

知的好奇心を満たす授業をご教授くださり、時に厳しく、時にあたたかく接して下さった先生方に、改めて感謝申し上げます。また、充実した学生生活を共に過ごし、修了後も様々なかたちでお付き合いいただいている友人の皆さんに、感謝申し上げます。

これから筑波ローを目指す皆様、在学生の皆様は、貴重な学生生活を存分に味わっていただきたいと思います。そして、修了生の皆様を含め、司法試験への挑戦が有意義なものとなるよう、法律を学んだことが今後の社会人生活において新しい扉となるよう、心より祈念しております。

健康第一で、自分らしさを大切に。